

日本鐵鋼協會記事

日本鐵鋼協會第十六回通常總會 4月3日

(金祭日) 午後2時開會 會場 東京市麴町區丸ノ内三丁目四番地 帝國鐵道協會館講堂 議事會會長俵 國一君議長席に着し開會を宣し議事に入り 昭和五年度會務報告、昭和五年度收支決算報告、昭和六年度收支豫算、任期滿了評議員改選、定款改正に關する件等を議了せり(別記同總會記事参照) 出席者數 本會役員を始とし總員160名、但し決議權ある會員96名外に委任狀68通にして總會成立したるものとす。

服部賞牌及服部賞金贈呈式 學式場所及時日 總會と同場所にして總會後壯嚴盛況裡に舉行せり(詳細は別記速記参照)出席者總數約200名

日本鐵鋼協會第六回講演大會 本大會は豫定通り4月3日(金祭日)午前9時より帝國鐵道協會館に於て開會したるも講演者豫想外の多數に昇りし爲め午後は2部に分ち午後5時30分迄に19題を演了せり(出演者及演題等は本會々誌廣告及第六回講演大會講演大要参照)出席會員238名にして最も盛況なりき後日「鐵と鋼」誌上にて其狀況報告する事とす。

日本鐵鋼協會第五回研究部會 4月5日(日)午前9時より東京市麴町區丸ノ内三丁目四番地帝國鐵道協會館に於て開會 今回の研究部會に於ては、砂鐵部會及第二回鑄物部會(鑄鐵品規格統一委員會)の二部會を開きたり其詳細は後日本會々誌上に報告すべきも出席者及議案下の如し

砂鐵部會 俵 委員長開會を宣し、本部會の座長

に向井哲吉博士を推したり。

議案 I. 砂鐵の還元に就て

II. 今後進むべき砂鐵還元法に就て

以上の議案に對し次の講演及意見書ありたり

講演 1) 主として砂鐵中の諸雜物に就て

梅津七藏君

前田六郎君

" 2) 主として還元劑に就て

岩瀬慶三君

" 3) 砂鐵の電氣爐製鍊 向山幹夫君

" 4) 砂鐵の實地製鍊 工藤治人君

" 5) 含チタン可溶性鑄滓の研究

福田連君

意見書 1) 砂鐵の還元に就て 永谷叔彦君

" 2) 砂鐵還元に關し鎔鑄爐製鍊所感

長谷川熊彦君

(意見書は俵 委員長朗讀す)

出席者 足立泰雄君 岩瀬慶三君 今泉嘉一郎君 上野建二郎君 梅津七藏君 大原久之君 大橋多吉君 嘉村平八君 河村 驍君 工藤治人君 香村小録君 志村清次郎君 鹽澤正一君 田中清治君 寺内正太郎君 花岡元吉君 橋本宇一君 服部漸君 福田連君 本多光太郎君 松下長久君 三島德七君 向山幹夫君 向井哲吉君 村上敏雄君 渡邊三郎君 以上之通りにして午後5時終了す。

第二回鑄物部會 議題 第一回鑄物部會議案の一「鑄鐵の試験法及び規格に關する件」の委員會續會以上開會するに先ち齋藤委員長開催の主旨を

述べ松村博士を座長に推し松村博士座長席に着かれ議事に移りたり。

本部會へ参考案として、鐵道省、關西鑄物懇話會日本鑄物協會より「鑄鐵品規格案の提出あり又佐々木新太郎君より「鑄鐵の機械的試験結果に就て」なる意見書提出あり、齋藤委員長より「對照參考案」及齋藤豊三氏研究の線圖等提出されたり

本題は性質上質疑意見多出し議了せるは午後10時30分に於て實に14時30分に及べり。

出席者 齋藤大吉君 松村鶴造君 池田英雄君 池田正二君 石川登喜治君 石原善雄君 五百旗頭啓君 井口庄之助君 濱住松次郎君 西村秀雄君 西津靄吉君 戸波親平君 百々初男君 緒方眞也君 勝間春三君 吉澤英雄君 俵 國一君 田口由三君 谷口光平君 高橋説次郎君 室井嘉治馬君 牛丸福作君 山田福治君 山口貫一君 山下興家君 松浦春吉君 松下長久君 香村小録君 海老原敬吉君 天利義昌君 齋藤彌平君 阪田三一郎君 佐々木新太郎君 湯淺龜一君 三島徳七君 清水橋治君 廣瀬政次君 瀬戸静雄君 杉本正邦君 以上40名なり。

理事會 昭和6年4月15日(水)午後5時開會 **出席者** 俵 國一君 河村 驍君 種子田右八郎君 渡邊三郎君 松下長久君 今泉嘉一郎君 鹽田泰介君 服部 漸君 室井嘉治馬君 三島徳

七君 **協議事項** 1. 商工省照會「鐵及鋼ニッケル分析方法規格案」に關する件、2. 第5回研究部會鑄物部會に於て採決せる「鑄鐵品規格案」に關する件、3. 第7回講演大會開催に關する件、4. 入退會者承認 5. 第6回講演大會、第16回通常總會、研究部會收支決算報告 以上審議し午後8時散會。

編輯委員會 昭和6年3月19日(木)午後5時開會 **出席者** 俵會長 池田正二君 石原善雄君 海老原敬吉君 足立泰雄君 廣瀬政次君 三島徳七君 鹽澤正一君 **協議事項** 1. 第6回大會準備及會場檢分、2. 大會委員分擔、3. 研究部會に關する件、以上にして午後9時30分散會す。

編輯委員會 昭和6年4月14日(火)午後5時開會 **出席者** 俵會長 室井嘉治馬君 三島徳七君 石原善雄君 田中清治君 廣瀬政次君 **協議事項** 1. 鐵と鋼第17年第5號上掲論文原稿選定の件、2. 大會及研究部會殘務に關する件、以上にして午後8時散會す。

鐵と鋼第5號上掲選定論文 次の通り。
統計的に見たる鹽基性平爐作業 帆足有志夫
白點の成因並に其防止法 武林 誠一
艦船用D鋼板の製造に就て 前田 元三
鉄力原板の表面疵に就て 吉田清三郎
熔融状態に於ける鑄造用輕合金 齋藤 大吉
銅合金 松川 達夫

入會者承認濟

| 居所又は宛名先 | 稱號及勤務先、職業 | 會員別 | 入會者氏名 | 紹介者 |
|---------------------|---------------------|-----|------------|--|
| 本所區向島請地町一七六 | 帝國發條製作所 | 正 | 清水 勅 夫君 | 田村 中 清 郎 松 橋 三 善 郎 波 邊 國 泰 一 石 原 立 一 吉 俵 向 井 邊 三 善 足 邊 原 加 勢 依 向 渡 石 藤 加 渡 石 尾 藤 加 石 川 口 正 名 |
| 府下大森町六四七五日本特殊鋼會社研究課 | B. S. M. Eng | " | 立 山 重 紀君 | 村 松 橋 太 郎 |
| 府下荏原郡玉川村等々力三、五三九 | 工學士 鑛山局 | " | 大 橋 多 吉君 | 立 國 泰 一 |
| 府下杉並町阿佐ヶ谷五〇三 | 株式會社常盤商會鑛山部長 | " | 之 助君 | 井 邊 國 泰 一 |
| 神奈川縣逗子町新宿(逗子三〇二) | 工學士海軍造兵少將 日本特殊鋼會社顧問 | " | 堀 將 之君 | 渡 石 藤 加 勢 |
| 市外大久保町陸軍科研究所第一部 | | 准 | 一 村 秀 男君 | 尾 藤 加 勢 |
| 北海道室蘭市日本製鋼所輪西工場 | 同工場設計係 | " | 一 堀 山 龍 馬君 | 川 口 正 名 |
| 山口縣都濃郡下松町日立製作所笠戸工場 | | " | 堀 越 義 秀君 | 村 松 橋 太 郎 |

退會者承認濟 正會員 大阪イリス商會 根岸政一 准會員 入江定男 中原 英 以上4名 **死亡者**

准會員 有働重斌君二月二十四日逝去に付きては洵に痛惜の至りなり茲に謹んで哀悼の意を表す。

日本鐵鋼協會第十六回通常總會 (議事速記録)

會場 東京市麴町區丸之内三丁目四番地
帝國鐵道協會會館講堂

時日 昭和六年四月三日午後一時開會

(日本鐵鋼協會會長工學博士 俵國一君議長席に著く)
議長(俵君) 之より第十六回の通常總會を開きます。

議 事

議長(俵君) 議事に入ります。

昭和五年度會務報告

昭和五年度會務報告

自昭和五年三月一日 至昭和六年二月二十八日

1. 集 會

通常總會 1 回、理事會 10 回、編輯委員會 12 回
評議員會 2 回、講演會 2 回、服部博士資金委員
會 2 回

2. 會員異動

| | 名譽 會員 | 維持 會員 | 贊助 會員 | 正會 員 | 准會 員 | 計 |
|-----|----------|----------|----------|---------|---------|-----|
| 入會者 | 2 | 1 | — | 32 | 55 | 90 |
| 退會者 | — | — | — | 49 | 48 | 97 |
| 死亡者 | 1 | — | 1 | 6 | 6 | 14 |
| 差 引 | | | | | | -21 |

イ、死亡者氏名

名譽會員 淺野 總一郎君
贊助會員 水橋 義之助君
正會員 木村 濟雄君 富田 儀作君
宮崎 操君 藤野 懿造君
木村 新君 永留 小太郎君
准會員 池田 一郎君 宮崎 長次郎君
北村 義郎君 矢作 五三郎君
生田 純次郎君 眞山 哲也君

以上會員拾四氏を衷むるは痛惜の至りなり 猶以上諸
氏の訃に接しては直に弔詞を呈し 哀悼の意を表せり。

ロ、改姓名者……七名あり。

ハ、准會員より正會員に變更されたる方……41 名あり。

3. 會員總數

| | 名譽 會員 | 維持 會員 | 贊助 會員 | 正會 員 | 准會 員 | 計 |
|-----------------|----------|-------------|----------|---------|---------|-------|
| 昭和六年 三月廿八日現在 | 9 | (44口) 26 | 19 | 759 | 578 | 1,391 |
| 前年同 期比較 | +2 | (+1口) +1 | -1 | +16 | -39 | -21 |

備考 維持會員一社(一口)増加せるは 戸畑鑄物株
式會社加盟されたり。

4. 會誌及印刷物の刊行

イ、本會々誌「鐵と鋼」は第十六年第三號より第十七年
第二號迄毎月一回發行せり。

ロ、「日本鐵鋼協會第五回講演大會講演大要」を印刷し
會員全般に配布せり。

ハ、商工省鑛山局編纂「製鐵業參考資料」(昭和五年六
月調査)を一回發行し「鐵と鋼」第十六年第十一號に
附録とし其他必要者に實費を以て分譲せり。

ニ、商工省臨時合理局規格統一調査決定の「日本標準
規格」を本會關係の分印刷發行の件當局に出願し 認
可指令既に受けたるも 本年度末迄に發行に至らず目
下準備中 (本會發行種目は會誌の會告に附いて見ら
れたし)。

5. 處務事項

イ、評議員湯川寛吉君退會と同時に 評議員を辭任され
たるを以て其の補缺を評議員會に於て 法學士小倉正
恒君を推薦し直ちに同氏の快諾を得たり。

評議員故永留小太郎君の 補缺を評議員會に於て小田
切延壽君を推薦し直に同氏の快諾を得たり。

ロ、編輯委員増員 會務進展上次記の三氏を 委囑増員
せり。

工學士 石原善雄君 工學士 池田正二君
工學士 廣瀬政次君

ハ、服部博士記念資金委員を推薦し 同資金の運用に関
し「服部博士記念資金取扱規則」を内定す。(鐵と鋼
第十六年十二號 1,326 頁参照)規則は後に添付せり。

ニ、海防義會より技術顧問委囑の依頼に對し 會長俵國
一君其の任に當られたり。

ホ、日本鐵鋼協會講演大會は從來年一回なりしを 來年
度より春秋の二回開催することとせり。

ヘ、本會の加盟せる工學會は組織及定款改正し 名稱を
「日本工學會」と改めたり。

ト、會誌改良 從來本會々誌は一段組なりしが 本年第
一號より之を二段組となし 又紙質は 60 听なりしも
のを 70 听のものとなし 寫眞圖面等を鮮明に印刷す
ることを期せり。

内容 内容中雜錄欄に「特許公報抜萃」及「最近内外
近刊誌參考目次」を掲載することとし 擔當を委囑し
て之を實行せり。

チ、名譽會員 淺野總一郎君逝去に就ては花環を呈し用意を表せり。

6. 調査事項

イ、商工省臨時産業合理局工業品規格統一調査會より照會の「鐵及銅硫黃分析法」「標準棒鋼及形鋼中改正」に関する件は本會に於て審議の上回答せり。

ロ、資源局より照會の「産業分類及職業分類」に関する件は本會に於て審査し其結果を回答せり。

ハ、資源局諮問の「科學的研究に關し不備缺陷と稱せらるゝ事例」に關しては日本工學會を経て回答せり此問題に關し工學會に於ては更に委員を設けて調査することゝ成り同委員として本會より、室井嘉治馬君を推薦したり。

ニ、研究部會開催 本年度に於ける研究部會は室蘭市に於て開催せり其の研究討議題目次の如し。

1. 研究機關に關する事項 (資源局諮問事項)
2. 平爐實地操業に關する事項 (「鐵と鋼」第十七年二號附録に掲載)

備考 1. 研究機關に關する事項に就ての記事は「鐵と鋼」第十七年第三號に附録として掲載。

ホ、第五回講演大會を機とし出席會員一同は豫定の如く著名なる工場、港灣設備、鑛山等を見學せり。

7. 表彰

イ、名譽會員推薦

日本鐵鋼協會 前會長 工學博士 服部 漸君
ドクトル ウヌスト君
サー、ハツド、フィルド君

以上三氏は斯界に貢獻せらるゝ事盡大なるを以て本會は評議員會の決議を以て名譽會員に推薦せり。

ロ、服部賞牌及服部賞金受領者決定

服部賞牌受領者 製鐵所技師
工學士 水谷 浩君

服部賞金受領者 釜石鑛山株式會社釜石鑛業所
技士心得 倉知鐸吉郎君

〃 株式會社住友製鋼所
技師 理學士 高木 弘君

〃 製鐵所
宿老 田中熊吉君

〃 陸軍造兵廠名古屋工廠千種機器製造所附
陸軍技手 渡邊 九二君

以上五氏を服部博士記念資金委員會に於て同資金取扱規則第七條、第八條該當者と認め頭書の通り決定せり。

ハ、服部博士へ胸像贈呈 同胸像は服部博士記念資金

寄附條件に基き製作中の處完成したるを以て贈呈せり。

8. 圖會寄贈を受けたる總數 本年度に於て寄贈を受けたる圖書總數……………285部

9. 講演會 本年度に於て開催せる講演會は東京に於て一回、室蘭市に於て第五回講演大會舉行の二回にして其講演題目及講演者氏名次の如し。

1) 歐洲鐵鋼業統制組織の近況

製鐵所參事 鈴木 武志君

2) 歐米に於ける鐵鑛處理の斷片談

東京帝國大學教授工學博士 桂 辨三君

3) 平爐噴出口に於ける瓦斯燃燒の實驗

東京帝國大學教授工學博士 俵 國一君

4) 鑄鑛爐用骸炭の灰分と燃料價值との關係

淺野小倉製鋼所工學士 帆足有志夫君

5) 骸炭製造の際に於ける副産物に就て

製鐵所所員 高山 正寛君

6) 蓄熱室用煉瓦の熱的性質に就て

製鐵所所員 河内 通君

7) 砂鐵鑛の酸化並に還元就て

東京帝國大學砂鐵研究室 梅津 七藏君

8) 砂鐵鑛の還元

東北帝國大學教授理學博士 岩瀬 慶三君

9) 熱分析より見たる褐鐵鑛の性状

九州帝國大學教授工學博士 井上 克巳君

10) 鐵鑛石間接還元難易の理由に關する二三の研究

東北帝國大學教授工學博士 大石 源治君

工學士 石部 功君

11) 沼鐵鑛の焙燒及燒結に就て

日本製鋼所輪西工場工學士 里村 伸二君

〃 〃 杉浦 伴君

12) 一酸鐵無水硅酸二元系の研究

京都帝國大學教授工學士 山田 賀一君

13) 鑄鑛爐に於ける化學反應

東京帝國大學教授工學博士 俵 國一君

14) 高揮發分北海道炭による製銑に就て

日本製鋼所輪西工場工學士 川口 正名君

15) 電氣爐に於ける白銑及鼠銑生成の因子に就て

三菱製鐵株式會社技師 向山 幹夫君

16) 鑄鐵の成分と鬆(引け穴)との關係

新潟鐵工所技師 松浦 春吉君

17) 鑄鐵製ロールの熱處理に就て

製鐵所研究所員工學士 谷口 光平君

18) 製鐵の話

日本製鋼所輪西工場長工學士 横田 文吉君

- 19) 鐵と鋼の話
東北帝國大學教授 理學博士 本多光太郎君
金屬材料研究所長
- 20) 特殊鑄鐵の性質に就て
石川島造船所 工學士 渡邊一郎君
- 21) 艦船用高滿俺鋼板の製造に就て
製鐵所所員 前田元三君
- 22) 富士式平爐に就て
富士製鋼株式會社技師 工學士 富山英太郎君
- 23) モル式平爐の構造及操業に就て
株式會社神戶製鋼所 技師 工學士 荻原光太郎君
- 24) 蓄熱室の研究
日本製鋼所室蘭工場 工學士 萩原巖君
- 25) 水素還元により製造せる鐵の性質に就て
明治專門學校教授 M.S. 嘉村平八君
- 26) 冷間鍛鍊による金屬の超表面硬化
陸軍科學研究所々員 陸軍砲兵中佐 尾藤加勢士君
- 27) 鋳力原板の表面疵に就て
附黑板の現状に關する參考事項
製鐵所々員 吉田清三郎君
- 28) 加熱爐の熱分布に關する計算
日本製鋼所室蘭工場 工學士 八濱康和君
- 29) 種油の焼入効果に就て
吳海軍工廠海軍技師 製鋼部々員 大畑宇治郎君
- 30) 工具鋼焼入用鹽浴に就て
陸軍造兵廠大阪工廠鐵材製造所長 兵少佐 杉本正邦君
- 31) 白點の成因並に其防止
吳海軍工廠海軍造兵少佐 製鋼部々員 武林誠一君
- 32) 鋼の纖維狀組織と其の性質
日本特殊鋼合資會社技師 玉置正一君
- 33) 燒鈍脆性に就て
日本製鋼所室蘭工場 工學博士 薛田宗次君
- 34) 固態滲炭劑の滲炭力減衰に就て
三菱航空機株式會社名古屋製作所 工學士 石澤命知君
- 35) 超高速度工具材料タンガロイの製造と應用
芝浦製作所 中村素君
- 36) 高マンガン大洲田鋼の加熱による組織及性質の變化
東北帝國大學教授 理學博士 村上武次郎君
助手 三神正苗君
- 37) 鐵、ニッケル、クロム三元合金の研究
日本電熱線製鐵株式會社 技師 工學士 松永陽之助君
- 38) 焼入研究自記膨脹計
東北帝國大學助教授 工學士 佐藤清吉君
金屬材料研究所々員

- 39) 熔融狀態に於ける鑄造用輕合金銅合金及鑄鐵の粘性に就て
京都帝國大學教授 工學博士 齋藤大吉君
大阪工業大學講師 工學士 松川達夫君

以上報告候也

昭和六年四月三日

日本鐵鋼協會

會長理事 工學博士 依國一

日本鐵鋼協會服部博士記念 資金取扱規則書

第一條 本會は本規則の定むる處に依り服部博士記念資金寄附者の申出に係る左の指定條件を實施するものとす

一、本記念資金は服部博士の名に於て左記條件を以て日本鐵鋼協會に之を寄附すること

二、本記念資金の一部(千圓以内)を以て服部博士の胸像を作成し之を贈呈すること。

三、本記念資金の保管は日本鐵鋼協會に於て確實なる信託會社に現金又は帝國公債を以て信託すること

四、本記念資金の使途及其の決定は左の方法による

(一) 鐵鋼に關する學術並に技術の發達上に貢獻し特に推奨に値する者に對する表彰並に其の他鐵鋼に關する調査研究資金に充當すること

(二) 前項の表彰に關する調査は毎年一回以上之を行ふこと

(三) 右の表彰並に調査研究資金の支出に就ては日本鐵鋼協會の選出したる委員(委員中に官立製鐵所員を加ふること)協議の上之を決定すること

五、本記念資金は夫れより生ずる利息のみを使用するものとす

六、日本鐵鋼協會は毎年一回本記念資金の收支計算をなし之を日本鐵鋼協會々誌に掲載報告すること

第二條 第一條の條件中第四項の三に該當する記念資金委員は本會理事並に理事會の推薦にかゝるものにして委員總數は二十五名以内とし其の任期は二ケ年とす但し連續重任を妨げざるものとす

第三條 前項の委員は記念資金委員會を組織す

第四條 記念資金委員會の事務を處理する爲め左の役員を置く

委員長 一名 幹事 四名

第五條 委員長には日本鐵鋼協會々長、幹事には理事之に當るものとす

第六條 記念資金利子を以て左の事業を行ふ

- 一、服部賞牌の授與
- 二、服部賞金の授與
- 三、鐵鋼に關する調査、研究資金の補助並に參考資料の調製配布

第七條 服部賞牌は鐵鋼に關する學術上及技術上の進歩發達に顯著なる貢獻を爲したる者に授與するものとす

第八條 服部賞金は鐵鋼に關する有益なる論文を發表したる者又は實地作業上技術の改良及發達に貢獻したる者に授與するものとす

第九條 服部賞牌及服部賞金は通常總會に於て之を授與するものとす

第十條 記念資金委員にして服部賞牌又は服部賞金授與候補者の推薦をなさんとすときは其の理由を附して記念資金委員會に之を提議するものとす

第十一條 記念資金委員會は豫め候補者の資格を審査し之を全委員に通知して其投票を求め受領者を選定するものとす

第十二條 前條の議決に關する投票は無記名とし有功投

票總數の四分の三以上の賛成あることを要す

第十三條 第六條第三項は同條第一、第二項の實施以外餘裕ありたる場合に限り之を實施するものとし記念資金委員會の承認を経るを要す

第十四條 毎年一回本記念資金の收支計算をなし之を本會の特別會計として通常總會に報告し日本鐵鋼協會誌『鐵と鋼』に掲載するものとす

議長(俵君) 皆様の御手許に差上げてある「昭和五年度會務報告」を御覽願ひます。例年の通りで別に變はつた事もありませぬ。唯三頁に書いてありますやうに本年新に「日本鐵鋼協會服部博士記念資金取扱規則」と云ふものが出來て、現に今日其取扱規則に依つて授與式を舉行するに至つたこととあります。別に御質問等がありませぬければ次に進行いたしたいと思ひますが如何ですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(俵君) 御異議ないものと認めます。

昭和五年度收支決算報告

昭和五年度收支決算表

(自昭和五年三月一日—至昭和六年二月末日)

| 收入之部 | | | 支出之部 | | |
|---------|-----------|--|-----------|-----------|--|
| 科 目 | 金 額 | | 科 目 | 金 額 | |
| 維持會員會費 | 4,400.00 | | 會誌印刷費 | 7,109.00 | |
| 正會員會費 | 6,480.85 | | 凸版及寫真版製作代 | 1,070.02 | |
| 准會員會費 | 4,087.25 | | 別刷印刷費 | 1,000.35 | |
| 入會金 | 125.00 | | 約束郵便料 | 475.64 | |
| 會誌分讓料 | 1,252.37 | | 會合費 | 306.45 | |
| 廣告料 | 2,535.92 | | 報酬及手當 | 3,140.00 | |
| 公債及社債利子 | 3,087.48 | | 借室料 | 1,680.00 | |
| 振替貯金利子 | 4.55 | | 原稿料 | 255.29 | |
| 銀行預金利子 | 162.07 | | 工學會費 | 200.00 | |
| 信託預金利子 | 289.88 | | 事務費 | 2,244.62 | |
| 寄附金 | 100.00 | | 講演大會費 | 1,351.95 | |
| 雜收入 | 90.68 | | | | |
| 計 | 22,616.05 | | 計 | 18,833.32 | |
| 差引過 | 3,782.73 | | | | |
| | | | 什器購入費 | 48.00 | |
| | | | 圖書購入費 | 42.00 | |
| | | | 計 | 90.00 | |
| 合計 | 22,616.05 | | 合計 | 18,923.32 | |
| 差引收入過 | 3,692.73 | | | | |

資 産 目 録

昭和六年二月末日現在 (差引増減欄の +は増
-は減 を示す)

| 摘 要 | 昭和五年 二月末日現在 | 昭和六年 二月末日現在 | 差 引 増 減 |
|-------------------|----------------|----------------|-------------|
| 1 圖 書 | 234.00 | 276.00 | + 42.00 |
| 2 什 器 | 549.00 | 597.00 | + 48.00 |
| 3 有 價 證 券 券 面 | | | |
| 東京電燈株式會社々債第七回丙 | ¥ 13,000.00 | 12,870.00 | |
| 同上物上擔保附社債第三回丙 | ¥ 1,000.00 | 910.00 | |
| 東京モスリン株式會社々債第三回は丙 | ¥ 7,000.00 | 6,867.00 | - 1,100.00 |
| 山陽中央水電株式會社々債第六回丙 | ¥ 6,000.00 | 5,880.00 | |
| 京濱電鐵株式會社々債第四回は | ¥ 3,000.00 | 2,986.50 | |
| 東京市電氣事業公債第四回甲 | ¥ 5,000.00 | 4,300.00 | |
| 白山水力電氣株式會社々債 | ¥ 10,000.00 | 9,900.00 | |
| 4 會誌發行擔保金 | | | |
| 帝國五分利公債 甲迄 | ¥ 1,000.00 | 907.00 | |
| 5 約束郵便擔保金 | | | |
| 帝國五分利公債 み號 | ¥ 150.00 | 292.84 | |
| 現 金 | ¥ 155.00 | 292.84 | |
| 6 借 室 料 敷 金 | | 420.00 | |
| 7 振 替 貯 金 | | | |
| 振替貯金 基本金 | | 10.00 | |
| 振替口座 現在高 | | 189.97 | + 7,364.48 |
| 8 銀 行 預 金 | | 6,193.54 | - 2,750.05 |
| 9 信 託 預 金 | | 5,503.16 | + 289.88 |
| 10 現 金 | | 120.61 | - 111.58 |
| 計 | 58,133.62 | 61,916.35 | + 3,782.73 |
| 服部博士記念資金 | | | |
| 帝國五分利公債ひ號 | ¥ 20,000.00 | 18,290.00 | |
| 三菱銀行特別當座預金 | | 958.88 | |
| 現 金 | | 10.34 | |
| 計 | | 19,259.22 | |
| 合 計 | | 81,175.57 | + 23,041.95 |
| 資 産 増 加 | 58,133.62 | 23,041.95 | |

議長(俵君) 昭和五年度の收支決算報告を御覧願ひます。収入之部が2萬2,616圓05錢、支出之部が1萬8,833圓32錢、尙ほ什器及び圖書の購入費を支出の方に廻しますから、差引いたしまして、一番終りの3,692圓73錢と云ふものが餘計に出ました。別に御異

議がなければ御承認を戴いたことにしますが如何ですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(俵君) 御異議ないものと認めます。

昭和六年度收支豫算報告

昭和六年度收支豫算表

自昭和六年三月一日—至昭和七年二月末日

| 收入之部 | | 支出之部 | |
|---------|-----------|------------|-----------|
| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
| 維持會員會費 | 4,400.00 | 會誌印刷費 | 7,500.00 |
| 正會員會費 | 6,500.00 | 凸版及寫真版製作費 | 900.00 |
| 准會員會費 | 4,300.00 | 別刷印刷費 | 350.00 |
| 入會金 | 150.00 | 製鐵業參考資料印刷費 | 600.00 |
| 廣告料 | 2,500.00 | 原稿料 | 350.00 |
| 印刷物分讓料 | 1,300.00 | 約束郵便料 | 500.00 |
| 銀行預金利子 | 130.00 | 報酬及手當 | 3,020.00 |
| 振替貯金利子 | 197.00 | 借室料 | 1,680.00 |
| 公債及社債利子 | 3,000.00 | 會合費 | 500.00 |
| 信託預金利子 | 305.00 | 事務費 | 2,500.00 |
| 寄附金 | — | 日本工學會會費 | 200.00 |
| 雜收入 | 100.00 | 圖書費 | 42.00 |
| | | 什器費 | 100.00 |
| | | 大會費 | 2,500.00 |
| | | 豫備費 | 2,140.00 |
| 合 計 | 22,882.00 | | 22,882.00 |

議長(俵君) 之は昨年の決算の結果に基いて作成いたしましたものであります。本年主として變はりましたのは、支出之部に於きまして、大會費であります。之は昨年は千圓でありましたが、本年は春と秋の二回に大會を開くと云ふので豫算を多く計上いたしまして2,500圓に致しました。尚ほ昨年は豫備費が大分多うございましたが、本年は2,140圓であります。此豫備費が多くは剩餘金の方に廻るものであります。御質問等はありませぬか。之に御異議ありませぬか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(俵君) それでは御承認を得たものと認めます。

任期満了評議員改選

議長(俵君) 次に任期満了評議員の改選に移ります、之は豫れて皆様の御手許まで差上げて置きました通り、評議員會に於て候補者を推薦いたしまして、既に一部の皆様の投票を戴いた譯であります。尚ほまだ投票の御済みにならぬ御方は今日こちらへ只今御差出を願ひます、こちらに投票箱がございます。それから此投票の結果を開票いたしますに付ては相當の時間が掛りますことですから、例に依りまして開票立會の御方を御願ひして、後程皆様に御報告いたしたいと思ひます。が如何でせうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(俵君) それならば、毎度御苦勞を願ふのであります。が立會人として加藤榮・三島徳七・池田正二の三君に願ひますから、三君に於かれて開票をなすつて御報告を願ひたいと思ひます。

服部博士記念資金昭和五年度收支決算報告

服部博士記念資金
昭和五年度收支決算表

(自昭和五年三月一日—至昭和六年二月末日)

| 收 入 | | 金 額 |
|---------------------|--|-----------|
| 摘 要 | | |
| 服部博士記念資金委員より受高 | | 19,671.29 |
| 公債利子(昭和五年 6.9.12月渡) | | 750.00 |
| 三菱銀行特別當座預金利子 | | 43.64 |
| 合 計 | | 20,464.93 |
| 支 出 | | 金 額 |
| 摘 要 | | |
| 帝國五分利公債額面貳萬圓買入代 | | 18,290.00 |
| 上記公債買入手數料 | | 20.00 |
| 昭和五年三月より四月十日に至經過利子 | | 110.08 |
| 資金領收廣告料(學士會拂) | | 6.00 |

| | |
|--------------------|-----------|
| 服部博士胸像臺共製作代 | 840.00 |
| 信託報酬(昭和五年四月より十月に至) | 6.67 |
| 胸像寫眞代(二回分) | 13.60 |
| 印刷物費 | 6.30 |
| 服部賞牌製作費(内金) | 200.00 |
| 雑費 | 3.06 |
| 合計 | 19,495.71 |

收支差引殘額 969.22 (銀行預金及現金)

議長(俵君) 之は豫れて會誌にも報告してありますやうに帝國五分利公債額面二萬圓を買入れまして、買入金が1萬8,290圓、之が資金になつて居りまして、此資金は使はないで之から生ずる利子を以て規定事業に充てると云ふことになつて居ります。昭和五年度の收支決算に於きましては一應資金を本協會に受けまして、それから服部博士の胸像其他同博士に贈りました支出の費用等があります。尙ほ御質問等かありますれば此際御願ひします。別に御質問もないやうでありますから御報告を了したことに致します。

定款改正に關する件

本會定款修正案

第三章中

(イ) 第十五條を次の通り改正す

第十五條 會長は總會に於て正會員中より正會員之を選擧するものとし其の任期を就任後第二回の通常總會終結に至るまでとす

但し連續重任することを得ず

備考 第十五條 會長は總會に於て正會員中より正會員之を選擧するものとし其任期を二ケ年とす

但し連續重任することを得ず

(ロ) 第十六條を次の通り改正す

第十六條 理事は總會に於て在京正會員中より正會員之を選擧するものとし其任期を就任後第二回の通常總會終結に至るまでとす

備考 第十六條 理事は總會に於て在京正會員中より正會員之を選擧するものとし其任期を二ケ年とす

(ハ) 第十七條を次の通り改正す

第十七條 評議員は總會に於て正會員中より正會員之を選擧するものとし其半數以上は在京會員たることを要す評議員の任期は就任後第二回の通常總會終結に至るまでとす

備考 第十七條 評議員は總會に於て正會員中より正會員之を選擧するものとし其半數以上は在京會員たることを要す評議員の任期は二ケ年とす

第五章中

(ニ) 第二十三條を次の通り改正す

第二十三條 通常總會は毎年一回三月下旬より一ヶ月間以内に於て之を開き事務及び決算の報告をなす

備考 第二十三條 通常總會は毎年春期に於て之を開き事務及び決算の報告をなす

議長(俵君) 定款改正に關しては豫れて御手許に差出して置きましたが、之は通常總會を開く時期に於ての裕取を少し付けたいと云ふので改正を御諮りするのであります。今迄の定款では「通常總會は毎年春期に於て之を開き事務及び決算の報告をなす」とあります。それが今度の改正案に依りますと「もつと時をハッキリ致しまして、「通常總會は毎年一回三月下旬より一ヶ月間以内に於て之を開き事務及び決算の報告をなす」となりまして、春期と申しますと普通の常識に於きましては三・四月と云ふことになりませうが、それを、三月下旬から一ヶ月以内と云ふことにハッキリ致したいのであります。此理由は、現在の定款であります、「春期に於て之を開き」とあつて時期が長いやうであります、十五條の方に依つて「任期を二ケ年とす」と云ふことになりまして満二ケ年のことを指しまするので通常總會を開く日取が一日も疎に出来ない。どうも決まつた日になるのであります。それでは却つて困るもう少し通常總會を開くのに日に裕取を付けたい。それには此度の改正を願ふやうなことにする方が實際問題として却て日を後先に持つて行くことが出来る。さう改正する結果と致しましては、第十五條に於きまして「二ケ年とす」と云ふのを「就任後第二回の通常總會終結に至るまでとす」、即ち第二回目の通常總會が終るまで會長の任務が續くのであると云ふことに致しますると、前の二十三條に「三月下旬より一ヶ月間以内」とありまして、それは幾ら長くなりまして二ケ年と一ヶ月、短かくなりまして一ケ年と十一ヶ月、それ以上には任期がないと云ふことになりまして、第十六條の理事の場合に於きまして、第十七條の評議員の場合に於きまして同様でありまして「第二回の通常總會終結に至るまで」と云ふことに關聯して御願ひ致したのでございます。此改正案のやうにして戴くと、常務の方で仕事を致します上に大變裕取が付いて宜しいのであります。若し御意見或は御質問等がありますれば私から御説明を申し上げることに致します。

(「原案賛成」と呼ぶ者あり)

議長(俵君) 別に御質問もないやうでございますが、皆

様に申し出ましたやうに改正案は總會に於て可決せられたものと認めて宜しうございますか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(俵君) それでは左様決しました尙ほ序でに茲で御含みを願つて置きたいのでありますが、それは第二十三條の「毎年一回三月下旬より一ヶ月間以内に於て之を開き」と云ふのが、意味は無論總會で決めて戴いた通りにするのでありますが、裁判所の登記の取扱上、字句に於て多少變更を受けるかも知れませぬから其點を御含み願ひます。

會務報告の續き

議長(俵君) 尙ほ報告の續きと致しまして、昨年度九月の評議員會に於きまして名譽會員が一名推薦されましたそれは豫れて會誌等でも御報告申し上げましたし、又今日御手許に略歴を差上げてあります所のサー・ハツドフィールド氏であります。日本の製鐵業に對しましても偉大なる關係がありますし、又世界の學者としましても立派な御方であります。斯う云ふ御方を我々の名譽會員に戴きましたことは本會の非常なる名譽と致す次第でございます。(拍手)

任期満了評議員改選の續き

議長(俵君) 評議員改選の開票の結果を御報告申し上げます。

加藤 榮君 それでは私より次期の評議員の改選の結果を御報告申し上げます。點數などは略しまして。御當選になりました方々の御姓名だけを申し上げることに致します。

| | | |
|--------|--------|--------|
| 磯村豊太郎君 | 一色 虎兒君 | 今岡純一郎君 |
| 石川登喜治君 | 井上禮之助君 | 井上匡四郎君 |
| 西野惠之助君 | 本多光太郎君 | 大石 源治君 |
| 大河内正敏君 | 大出 善一君 | 渡邊 義介君 |
| 桂 弁三君 | 金原 信泰君 | 金子 恭輔君 |
| 景山 齊君 | 吉田 豊彦君 | 堤 正義君 |
| 向井 哲吉君 | 室井嘉治馬君 | 鶴瀨 新五君 |
| 野田 鶴雄君 | 松田貞治郎君 | 江藤 捨三君 |
| 鮎川 義介君 | 三輪 時雄君 | 白石元治郎君 |
| 島 安次郎君 | 島岡亮太郎君 | 末 兼 要君 |

以上であります。尙ほ次點の御方が大分ございませうが略して置きます。

議長(俵君) 之にて總會の議事は終了しました。

服部賞牌並に服部賞金授與式

會長(俵君) 引續きまして服部賞牌並に服部賞金授與式

を舉行いたします、其授與式に先んじまして私より一言申し述べたいと存じます。豫れて會誌等にも御報告いたして置きましたが、服部博士の爲に紀念資金を募集されまして澤山の資金が集まりました譯であります。服部博士は御承知のやうに學窓を出られますと直ちに工業界に身を投ぜられまして、八幡製鐵所の創立以前から奉職されまして、引續き最近まで八幡で重要な職務に携はつて居られた次第であります。此御方の記念の資金を服部博士が本協會に御寄附になつた斯う云ふ譯であります。本協會に於きましては喜んで之を御受けしまして、豫れて申出になつて居ります所の斯う云ふことにして貰ひたいと云ふ其寄附條件に依りまして、「日本鐵鋼協會服部博士紀念資金取扱規則」と云ふものが制定せられて、評議員會の決議に依つて出來ました。爾來此規則に依つてそれぞれの手續を経まして、今日茲に第一回の授與式を行ふことになりましたのは本會と致しましても誠に目出度き極みと存ずる次第であります。服部博士には誠に健在であらせられまして、現に本日も朝から御出席になつて座長等にもなつて戴いて、引續き本會の爲に盡して戴いて居りますがどうか何時迄も御健在で日本鐵鋼業の爲に益々御盡しあらむことを切に祈る次第であります。

服部賞牌並賞金受領者推薦理由書

服部賞牌受領者(規則第七條)

八幡製鐵所 技師 水谷 浩君

同氏は大正 6 年以來製鐵所に於て専ら厚板の製造に従事したるが、大正 11 年同所に於て本邦最初の鋳力板製造を開始するに當り、當初の該工場主任として其の作業に従事し爾來今日に至るまで鋳力板の品質の改善と増産とに盡瘁せり。

同所鋳力板工場の製品が創業後數年にて本邦市場に於て聲價を得たるも、素より最初の指導者獨逸人技師 其他同所に於ける該作業に直接間接にある諸技術者の協力に俟つ所多しと雖も亦直接責任者として同氏の精勵與つて力あること今更茲に説くを要せず。

同氏は又大正 3 年以來同所に於ける第二薄板工場の擴張及大正 15 年以來第一薄板工場の作業改善に、當該課長として精進し、同所薄板生産作業の當今に至るまでの發展は同氏 就任以後に於て顯著なる實績を擧げたるは製鐵所實績表に明示せらるゝ所なり。

大正 14 年同所第二薄板工場に於て珪素鋼板の製造を開始するに至るや、從來同所に於ける試驗的製作の結果を綜合し同時に關係技術者と協力して工業的多量生産に

努め、其の品質をして輸入品に對し遜色なきに至らしめたるもの又同氏の努力による所多し。

同氏の功績は前記製鐵所の薄板生産作業に局限せらるゝものに非ずして民間に於ける薄板製造作業に就ても亦公務の傍ら勤からざる援助指導の勞を取りしことは公知の事實にして中山薄板會社の創業の際に於けるが如き此適切なる一例なりとす。

之を要するに同氏の努力は軌近長足の進展を示したる本邦の薄板製造作業に對し貢献する所多大にして表彰の資格ある者と認む。

服部賞金受領者(規則第八條)

釜石鑛業所 技士心得 倉知鐸吉郎君

同氏は明治 31 年釜石鑛山田中製鐵所技手に採用せられ、同 39 年分析係主席を命ぜられ、大正 13 年釜石鑛山株式會社組織變更と共に技士心得分析主任となり以て今日に至る。

此間 33 年餘終始一貫して業務に精勵し研究に没頭して一日も忽にせず、其の擔任するところの鐵分析及一般分析に關しては汎く内外の學說を涉獵し苟も採りて参考となすべきものあれば直に之を實驗して其の成果を極むることを常とし、從て其の研究資料の如きも優に數卷を爲すに足る。英文 The Key for Assaying of Ore and Metal の如きは僅に其の一端に過ぎず。

氏は大正 11 年 1 月儉しき私財を傾けて 10 ヶ月間歐米の學界を視察し、益々其の蘊蓄に力むる等稀に見る研究篤學の士にして洵に他の模範たるに耻ぢざる者なり。依て服部賞金受領の資格充分なるものと認む。

服部賞金受領者(規則第八條)

住友製鋼所技師 理學士 高木 弘君

氏は本多光太郎博士と共同研究になる K-S 磁石鋼の完成に就ては東北大學理科報告 (Vol. IX No. 5) 及日本數學物理學會誌 (Sep. 3. Vol. 2) に記載の通りにして其後氏は専ら之が製造を擔當せられ今日に至る。該鋼は現今世界に於ける最優秀の磁石鋼として廣く好評を博するに至り近年益々其の眞價を認められウエスタンエレクトリック社及ウエスティングハウス會社等海外にまで特許權の讓渡をなし其の製作量大に増加し、利用範圍を廣むるに至れり。依て其の功績顯著なるを以て服部賞金受領の資格充分なるものと認む。

服部賞金受領者(規則第八條)

八幡製鐵所宿老 田中 熊吉君

同君は明治 33 年製鐵所の職工として入職、同 34 年

鑄鐵職を命ぜられ爾來引續き専ら新業に従事し今日に至りしが、資性溫厚篤實、加ふるに業務に對する献身的なる精勵は能く衆を率ひて特殊の美風を順馳し、製鐵所の鑄鐵爐操業をして今日に至らしめしもの同君の努力に依る所少なからざるのみならず、民間諸製鐵所鑄鐵爐操業開始に際しては實際上の指導の任に當り其の作業をして順調に進歩せしめたるもの、等を履歷書に徴し又諸製鐵所の實績に照し明らかなる所とす。

此故に製鐵所は特に所内に於て奏任官待遇の宿老を命じ模範職工として之を表彰せり。

以上の業績を以て服部賞金を授けらるゝ資格充分なるものと認む。

服部賞金受領者(規則第八條)

陸軍造兵廠名古屋工廠千種機器製造所附

陸軍技手 渡邊 九二君

明治 43 年東京砲兵工廠附拜命以來 21 年間終始一貫熱心に鋼材の鍛造並に熱處理作業に従事し、總明に加ふるに絶大なる實地の經驗を以てし、克く之を日進月歩の兵器に應用すると共に之が改善をはかり、其の功績洵に偉大なるものあり。即ち三八式機關銃部品の改良を始めとし、大正 7 年航空用發動機製造工場を我陸軍に創設するに當り専心發動機部品の鍛造熱處理を研究し以て本邦最初の強馬力發動機の完成に大なる貢獻をなしたること、昭和 2 年名古屋工廠に於て輕機關銃、拳銃及擲彈筒等の新兵器を製造するに際し之が鍛造熱處理に關して熱心なる研究を行ひ無事に其完成に成功せしめたること、昭和 3 年名古屋工廠に於て強大馬力發動機の試製又は製造を爲すに當り、鋼材料の撰擇、熱處理法に就き献言する處多く且つ之が作業に任じ爲めに發動機製造の經過頗る順調なりしこと等、其他氏の功績に俟つ者極めて多し。

加ふるに氏は其性謙讓にして驕らず罕に見る人格者にして誠心業務に服し、又能く後輩を指導し上下の信望極めて厚く陸軍造兵廠界に於ける至寶なり。依て服部賞金を授けらる資格充分なりと認む。

會長(依君) 今日の榮を受けられたる方々に付ては其推薦理由書を御手許に差上げて御座いますが、服部賞牌を受けらるゝ水谷浩君は、大正 6 年以來八幡製鐵所に於て厚板の製造に、後には薄板の製造に付て其創業以來努力されて居ります。同氏は常に製鐵所に於てのみならず、民間に於ける日本の薄板生産力が盛んになつて参つたのも全く同氏の指導援助に基くものと言つて宜しいやに聞き及んで居ります。茲に第一回の服部賞牌の受領者として同君の如き御方を得ましたことは本

協會として誠に喜ばしいことであります。

水谷 浩君服部賞牌 受 (一同拍手)

會長(俵君) 次に今回の服部賞金の受領者が 4 名居られます。推薦理由書にございますやうに、先づ倉知君は、明治 31 年以來釜石鑛山田中製鐵所に居られまして、30 年以上も終始一貫分析の業務に勵精せられて居ります。又氏は自費を以て歐米各國を廻られたやうな次第で、誠に篤學の御方でありまして、従つて服部賞金授與者として斯かる立派な御方を得ましたことは本協會として誠に喜ばしい次第であります。

次に高木理學士に於きましては、本多光太郎博士と共同研究をされまして、K.S. マグネット鋼の完成に付て努力されました。爾來住友製鋼所に居られまして、鋼の製作に付ては非常に努力されましたので、此優秀なる磁石鋼が今日歐米に於きまして名聲を博して居りますのは大いに高木君の努力に依るものであります。斯かる御方を得ましたことは誠に本協會の名譽とする所であります。

次に田中熊吉君は八幡製鐵所の宿老でありまして、八幡の製鐵所が明治 33 年創業以來今日に至るまで、八幡の製鐵所の鑄鐵爐の方の作業に従事されて居ります。最初の困難な時期から今日の如く八幡の鑄鐵爐作

業の進歩するに至つたのは、田中氏の大いに與つて力ある所と存じます。斯う云ふ御方を得ましたとは誠に本協會の喜ばしく存ずることでもあります。

次に渡邊九二君は、明治 43 年以來東京砲兵工廠に拜命されまして、21 年間終始鋼材の鍛造並に熱處理作業に従事せられ大正 7 年以來は航空用發動機製造及び昭和 2 年以來は名古屋工廠に於きまして輕機關銃等銃等の製作に關して熱心に研究されまして、今日の重要な兵器を造るに重大なる功績を有して居られます。斯る御方を服部賞金の受領者として得ましたことは誠に喜ばしいことであります。之より只今理由を説明いたしました諸君の順序に依りまして茲に賞金を差上げますことは誠に本協會の光榮でございます。

倉知鐸吉郎君 服部賞金受領 (一同拍手)

高木 弘君 服部賞金受領 (一同拍手)

田中 熊吉君 服部賞金受領 (一同拍手)

渡邊 九二君 服部賞金受領 (一同拍手)

會長(俵君) 之にて本會第 16 回の通常總會及服部賞贈呈式を終ります。

以上の通りにして莊嚴盛況裡に終結し午後 2 時より四階に於て午後の講演會を開會す。

日本鐵鋼協會 第 16 回 通常總會 懇親會 席上演說 (速記)

4 月 3 日午後 6 時より鐵道協會館食堂にて開會

俵 國一君 私より一言御挨拶を申し上げます。今夕懇親會を催しましたところ會員諸君多數御出席下さいまして誠に有難らございます。殊に本日の盛會を齎して下さつた講演者諸君が今晚態々御出席なされ、又明日見學の爲に御世話下さる工場の御方及び服部賞牌並に賞金を受けられた方々の御出席を戴きまして、誠に有難い次第で、茲に厚く御禮を申し述べます。例年は此懇親會はどうも振ひませんで出席される御方も誠に少いのでありますが、本日は何時になく多數の御出席を戴きまして、斯く賑やかに御互に一夕の歡を盡すことの出来るのは喜ばしい次第でございます。本年は先程講演會の最初に於きまして私より申しました如く例年とは趣を異に致しまして講演大會を開きました所が、豫期以上に二百何十名といふ御出席を見まして、盛大なる總會を開くことが出来ましたやうな次第であります。唯どうも遺憾でありましたのは、講演をなさつた御方が幸ひにも意外に多かつた爲に、午前は兎も角も、午後の講演を二つに分けました、立派な方々が立派な

講演をなすつて戴くので、私一個人としても兩方同時に聴きたいと云ふ思ひを抱きながら一方を割愛したやうな次第でありまして、諸君に於かれども唯かし御同感のことであつたらうと思ひますが、どうも時間の關係上思ふやうに參らなかつたのでありまして、之に付きましては、今夕或は此處でなくとも、どう云ふやうにしたら宜いかと云ふことを諸君から我々に御教へ下さいませれば大變參考になる次第であります。さう云ふ不都合があつたにも拘らず盛會を極めましたことは誠に喜ばしい次第でございます。例に依りまして之からテーブルスピーチを御願ひ致したいと思ひますが、僭越ながら私から指名さして戴くことを御許し願ひたいでございます。先づ、今日服部賞牌並に服部賞金を御戴きになつた方々が御いてになります、其總代……と云ふ譯でもございませぬが水谷さんに願ひます。(拍手)

水谷浩君 御指名に依りまして、甚だ僭越であります。本日服部記念賞を戴きました一人と致しまして御禮を申し上げたいと思ひます。此度服部博士の記念賞が制定いたされまして、圖らずも我々の如きものが其光榮

を擔ふことになりまして、其光榮の偉大なると、私が過去にやつて参りました事柄其ものと照し合せまして、一方に於ては誠に感激に堪へませんと同時に、他方に於きまして唯々汗顔の至りと申すより外に何ら適當なる言葉を見出し得ません。私は今まで唯單に先輩各位の御指導と色々な御研究及び國內の有識者諸君の御努力の結晶をば、自己の命ぜられたる仕事の上になんか斯うかやつて参つたに過ぎないものであります。斯かる私にも拘らず光輝ある記念賞を授與せられて、今後授與せらるべき記念賞の歴史を或は汚しはしないであらうかと云ふことを只管恐れて居るのであります。今迄は皆様の御援助と御同情ばかりに依つて漸くやつて参りましたが、今後は、今回受けましたる光榮並に今まで戴いて居りました所の御同情、さう云ふやうなことを考へる場合に於きましては、益々努力いたしまして、今日の此汗顔を取返したいものであると思ひますので、それを茲に誓ひたいと存じます。斯かる私に對しまして今夕は此盛大なる晩餐會に招待して戴きまして、私に取りましては誠に身に餘る光榮と存じます。此點厚く御禮を申し上げます(拍手)。

俄國一君 次に前會長の今泉博士に願ひます。

今泉嘉一郎君 我が日本鐵鋼協會は茲に滿16年の歳月を閲しましたが、此間に於ける我が國の一般製鐵鋼界の狀況は、之を生産事業の上より見ましても亦學術研究の上より見ましても實に偉大なる進歩をなしまして、今日から舊時を顧みると誠に隔世の感が致します。世界の鐵生産額は今日では隨分殖えて居りますが、今より16年前に於ては我が國は確か40萬噸ぐらゐであつたものが、昨年は160萬噸即ち4倍の生産力になつたと云ふことは顯著なる進歩を示したものであり、是と同期間に於ける世界のアベレイジの2倍と云ふに對して洵に目に立つて立派なものであると思ひます。併し何と申しましても昨今は御承知の非常な財界の不景氣でありまして、今日まで折角發達して來た此重要事業も其生産能力に對して幾10%に上る制限を自ら加へなければならぬと云ふ有様で誠に残念の至りであります。併しながら斯う云ふ場合に際して、我が鐵鋼協會は其活動を差控いるやふな態度に出ても良いか、或は諸君の如き研究家が其研究を躊躇しても良いかと云へば、之は以ての外でありまして、斯かる場合と雖も絶えず否一層熱心に研究を續け又生産事業にも努力しなければならぬと云ふことは明らかであります。最近貴族院に於て藤澤博士が、今日の財界の窮狀を救ふ道は學問の奨勵にありと言はれて居る。之は一見極めて平凡な

る學問進歩の議論のやうでもありますが全く眞理のあることであると思ひます。元來我々が協會として努め或は研究者として努めるのは決して目前一時の世情に對してではない。將來永久の爲であることは申す迄もない。即ち生産事業に向つては安くて良い物を造ると云ふ大方針を以て絶へず努力して行くのではあります。夫れが即ち又一時の不況を救ふ所以のものともなるのであります。世界製鐵歴史の上から見ますと、戦争と製鐵事業と不景氣と景氣恢復との間には密接の關係がありまして、大戦争の後には製鐵事業が勃興し、夫れがオーバー・プロダクションとなつて不景氣となり、夫れが更に技術及經營の合理化を促して景氣が恢復するのであります。勿論鐵ばかりではなく、他の生産事業も皆多少同様の關係がありますが鐵ほど力強く此關係を持つものはないのであります。古い一例を挙げますと彼の1870年に勃發したる普佛戦争の後3、4年にしてヨーロッパの中心に巻き起つた財界の大恐慌と云ふものは、1874年から1879年まで5年間續きました。之は單に普佛の地に止まらず、延いてはアメリカ迄が其影響を蒙つて世界的不景氣となつた、而して此不景氣は製鐵事業が戦争の結果として各國共に進み過ぎた、然し不規則不合理に進み過ぎて世界的にオーバー・プロダクションに陥いつた爲であると言はれて居ります。新しい例としては最近の歐洲大戦争の後に於ける現在の情況であります。此不景氣に次で來るものは生産事業の改良であります。前の1879年の不景氣の恢復にも製鐵事業の改良が最も有効に先鞭を付けて働らいた夫れには何を措ても彼の製鐵技術一大革命を齎したるトーマス・プロセスの發明を擧げなければならぬ。之に就て今一挿話を申上ますと其發明者たるトーマスなるものは微々たる一書生でありました。彼はイギリスのロイヤル・スクール・オブ・マインズを卒業して、英國鐵鋼協會の會員になつて、何か從來のベツセマー・プロセスに改良すべき點はないだらうかと云ふ點に著眼した。當時はまだアルサス・ローレンの鐵鑛床が今日見る如き偉大なるものであることを知らなかつた時代であつたが夫れでも尙當時知れる限りのヨーロッパの鐵鑛の10分の1しかベツセマー・プロセスには使へない。ヨーロッパには燐の多いためベツセマーに使へない鐵石の多いのであるから何とかベツセマーの改良を圖らなければいかぬと考へた。そこでトーマスは學校では彼の有名なパーシー教授の講義を聞いて一通り鐵冶金學の知識は持つて居たが尙ほターナーやグルーナーの冶金學著書を研

究して、鋼の燐を取るにはどうしてもベーシック・スラグで鋼を熔かさなければいかぬと考へて、自分のラボラトリーと言ひますか、下宿屋の狭い庭であるかに6ポンドの容量しかない小さな坩堝型のコンバーターを造り、焼石灰と水硝子を以て壺の内面を塗りまして、それに依つて熔かした鋼を吹精した結果燐が取り去られて所謂トーマス・プロセスを發見したのであります。之は良いことを發見したと思つて、1878年パリに世界博覽會が開かれた機會で、イギリスの鐵鋼協會が彼處で大會を開く事になつた時に、其大會の席上でトーマスは自己の研究の結果を報告しやうと思つてプログラムの中に載せて貰つたところが、イギリスの錚々たる先輩が、そんなことは實際には出来るものか、もう講演の時間も少なくなつたからトーマスの演説はオミットしやうと云ふことになつて、遂にオミットされてトーマスは非常な恥をかかされたが、それに挫けないで、之は必ず出来るプロセスであると確信して、今度は、小さな製鐵所の分析技師をして居つた従兄弟のグリヒリストに相談して、爐の内面をドロマイトに改め且つもう少し大きな試験をする事に致しまして、其工場内で、3噸吹のコンバーターを拵へて試験をなし一層好成績を挙げました。そこで翌1879年に、今度はロンドンで開いた鐵鋼協會の會合を機として、單に講演ばかりでなく實驗もして見せ、それが常非な評判になりました。即ち其年の9月22日には獨逸でもヘルデの製鐵所が第一着にトーマスの吹き初めを行ひました。そふなると今まで丸で無用劣等鑛石と考へられて居つた合燐鐵鑛が非常に價值のあるものであり、殊に普佛戰爭の結果取つたアルサス・ローレンには燐の多い鑛石が多量にあると云ふことを知るドイツに於ては、非常な勢でやり始めた。それが爲に獨逸は先づ以て非常に安い生産費で有用な鋼を造るに至つたのであります。それと云ふのも僅か28歳の一青年たるトーマスがさう云ふ立派なプロセスの發明をした結果であります。トーマスは此發明後7年で35歳と云ふ早死をしましたから、自己の發明の大發展を見ずに死にましたが、とにかく何ら經驗なくして玩具のやうなコンバーターでやつた試験で始まつたことでありまして、貧弱なる一青年の研究がヨーロッパの製鐵事業を救ふと同時に夫れが動機となつて1880年から遂に世界の景氣を恢復する發端となつた。のみならず今日の世界製鋼の大發展を促した技術革命でありました。斯う云ふことから考へましても、我々は今日のやうな場合に於て、我々の研究グループが、何も財界の一時

の不景氣を救ふなどと云ふ考では無いとしても其研究の結果が自然と財界の不景氣を救ふ一の原因にもなり得ると云ふことは明らかであります。私は本日の皆様の御講演を細さに拜聴しました。又明後日行はるべき砂鐵研究部會に對しても非常な興味を以て諸君の御説を拜聴したいと考へて居ります。とかく今迄は實業に關係して居るものは研究家の仕事を幾分輕蔑するやふなこともあつたのであります。前申したトーマスの事績に徴しても、微々たる研究と雖も決して等閑に附すべからざるものであると思ふのであります。要するに本日の御講演は何れも非常に深入した専門的研究でありまして、一席の御講演を聴いただけでは充分に咀嚼することの出来ないこともございますが、どうぞ皆様に於かれましては今後益々御研究を御奮勵になつて、各自の専門に至つて御互に盡力して、目前の犠牲を惜まらずに進んで行くことと云ふことが、本會の結局の趣旨でもあり又御互の國家に對する使命であると思つて居るのであります。誠に詰らぬことを申し上げましたが、一言私の所感を述べた次第でございます。

(拍手)

倭國一君 次に服部博士に御願ひ申します。

服部 漸君 只今、今泉君より極めて有益なる御意見の御發表がありまして、もう此上私より申上げる必要はございませぬが、折角會長よりの御指名でございましたから一言御挨拶を申し上げます。私は本日の第16回目の總會に出席いたしまして、午前には諸君の御講演及び倭會長よりの詳細なる御報告を伺ひ、又午後からは二つに分れて講演會がありまして、私は一部の方に出席いたしました。多數の方々より有益なる御講演を御聴かせ下さつて誠に感謝に堪へない次第であります。あの盛大なる講演會又は鐵鋼協會の事務報告などを伺ふにつけて、私は我が日本鐵鋼協會が年を遂ふて著しく發達して行くのを見て誠に喜びに堪へないのであります。それは單に雑誌「鐵と鋼」を見ましても其内容が近時著しく改善せられて進んで參つたと觀察して居るのであります。今日講演をなさつた方々の御話を伺ひましても、其獨創的御研究の結果を斯う云ふ會の機會に於て御發表になつて之を會誌に載せる、或は又各工場に居られる方々は、其技術上の事に關して工夫改善せられた結果を發表せられてそれが會誌に載せられると云ふことは、我々が此會の發展を冀ふ本旨の一端であると思ふのであります。近年我が日本は世界的の評判になつて、一昨年東京に開かれた萬國工業會議と云ひ又昨年の外國に於ける動力會議にそれぞれ適

當なる方々を派遣せられて大いに活躍せられたと云ふやうなことが、日本の文化殊に科學方面に對して非常なる發達をなしつつあると云ふことを歐米に感ぜしめたのでありますが、それは我が鐵鋼協會の方々の盡力も非常に大なる部分を占めて居ると思ふのであります。殊に本多君の如き人を會員として持つて居ることは我が鐵鋼協會の非常な名譽であると考へる次第であります。どうか諸君の研究努力を今後とも益々進められまして、幾多の本多博士や又只今御話のありました幾多のトーマスの如き人が我が鐵鋼協會の會員の中から續々と出るやうなることを偏に私は期待して居る譯であります。更に此際特に一言私が申し述べたいと思ひますのは、本日初めて此鐵鋼協會に於て記念賞牌並に賞金の授典式のあつたことでございます。私は此賞牌並に賞金を受けられた方々に對して衷心より御喜びを申し上げる次第でありまして、尙ほ今年を初めとして之から毎年續々とさう云ふ賞に當られる人を得ることを望む次第であります。同時に私は、此賞牌並に賞金に私の姓を冠して私に名譽を興へて下さいましたことを、多額の寄附金を寄贈せられた諸會社及び先輩諸君並に同僚諸君に對し、此機會に於て改めて厚く御禮を申し上げて置く次第であります。(拍手)

儀 國一君 次に河村博士に願ひます。

河村 驍君 先輩の今泉、服部兩博士より色々とお話がありまして此上私より申し上げることはございませぬが、私も先輩の御引立並に皆様のお援助に依りまして長らく協會の役員のお席を汚して居りますので、斯う云ふ席で申し上げましては甚だ不適當であるかも知れませぬが、先程會長から御述べになりました如く斯くの如く多數の會員が御集まりになつて晩饗會を開くと云ふことは今迄に曾てなかつた盛況でありますので、此多數御集まりになつた機會を利用いたしまして、皆様に一言私の考へて居ることを申し述べたいと思ひます。本會は大正4年の春に創立されまして、先程今泉博士が仰しやつたやうに丁度滿16年になります。此16年間に於ける日本の鐵鋼業の進歩發達に付ても御話がありましたが、私のは問題が極く小さいのであります。本協會の發達を顧みまして誠に感慨に堪へぬものでございます。其當時と比較いたしますと、先程から御話がありました通り、會誌其もの、内容に於ても、將又其中に書いてある所の論文研究報告の内容に於きましても丸で隔世の感があるやうに思ひます。其外、講演大會の開催、研究部會の開催、並に本年からは服部博士の賞牌並に賞金の授典式等、本會の事業は

着々と進歩發達しつつあるのでありまして、誠に御同慶に堪へぬ次第であります。私は此會の發展の最も必要なる原動力は何であるかと云ふことを役員として終始考へて居りまして、之は私一個の考であるかも知れませぬ、從つて偏した考であるかも知れませぬが、私は會の發展の基礎は資金の充實にありと云ふことをモットーとして居るものであります。今日會長から御報告になりました本會の資産の狀況に於きましても、昨年は非常に好都合に運びまして2,300餘圓の剩餘金が出来て居るのであります。併しながら、前申す通り本會も著々發展はして居りますが、尙ほ今後に於きましては、或は講演大會の前に於けるアドヴァンス・コッピの調製、或は雜誌類に致しましても、會員の中に色々種類がありまして、鐵鋼に關する普通の記事を會誌に掲げて、尙ほ其毎月發行する會誌の外に例へばドイツのアルキープの如く更に研究報告をそれに附けて希望者に渡す、或は其他製鐵事業の参考となるやうな有益な資料を作つて配布する、斯う云ふ様に外國の例に依りましても爲すべき事業は今後澤山あるのであります。併し何を云つても之に先立つものは資金の充實であります。而して本會は永久に續かなければならぬものであるから、我々は極力無駄な經費を省いて資金の充實を圖り、その剩餘を蓄積して行つて、10年20年の先を樂みにして成るべく基本金を殖やして會の發展を期する次第であります。前年の如く相當の剩餘金があるならば何故もう少し派手な仕事をしないか、御馳走もモットしたらどうだと云ふやうな御注文があるかも知れませぬが、實は經費の點に於きましても、鐵鋼協會は事務員が2人居るだけでありまして、目下の處小使も1人も置いて居りませぬ。手紙を出すと云ふやうなことも事務員の方が自らやられるのでありまして、會誌を發送するのでも、包裝して嵩張つたものを矢張り自ら郵便局に持つて行くと云ふやうに、極力經費を節約して、協會の爲に刻苦勵精働いて居られるやうな譯でありますから、どうか、金が餘るのだから餘り會費などを督促しなくても宜いぢやないかと云ふやうな御説のないやうに、前途に燃ゆる希望を持ち、將來大いに發展する所の基礎を造るものと思召して、今後とも充分本會の爲に御盡力下さることを偏に希望する次第であります。(拍手)

儀 國一君 段々時間が経ちましたが、どなたか御感想を御述べになる御方はありませぬか。百々さんは如何ですか。

百々 初男君 それでは御指名に依りまして僭越ながら

一言述べさして戴きます。それは實は他の事でもございませぬ、自分は御承知の通り鑄物と云ふものに携はつて居ります關係上チョット新しい計畫を致して居りますので、それを極く二三分間述べさして戴きたいと思ひます。本日午前にも突然掲示を張出させて戴いたやうな譯であります、鑄物と云ふものはどう云ふやうに理窟を言ふても亦どう云ふやうに議論を闘はせても、實際にうまく行ふことが非常にむづかしいものであると云ふことは既に皆様御承知でありまして、それに對しては既に議論も十分に盡され、色々の發表もあるのですけれども、どうもまだ最後の所まで行かぬと云ふ見解から致しまして、もう議論とか筆の上とか云ふのは大概にして、一つ實物に依つて啓發しやうぢやないかと云ふ根本計畫の下に、實は甚だ僭越てはありますが、私のやうな道樂者が居らぬと之は出来ないことでありまして、此5月の16日から大阪府の御後援を得まして、大阪鐵工業同業組合と、微弱ながら我々が組織して居ります關西鑄物懇話會とが協力の下に、大阪で汎鑄物工業展覽會と云ふものを開催して見たいと云ふ計畫を持つて居るのであります。鑄物業を發達さす爲には、先輩國たる英國を初めドイツ・アメリカ等にては大きな鑄物のエキジビションと云ひますか所謂展覽會なるものが隨分行はれて來て居りまして、既に各國のは我々も見せられて來たのであります。日本では近來鑄物々々と聲ばかりは聞いて居るが事實はさ程でないと思ふのを慨歎して居る次第です。今回の催しては鑄物に關するものは總べて、鐵であらうとスチールであらうとアルミニウムであらうとマリエールであらうと總べて出品して戴く。原料ではカツパーとかヒツグとか、コークス燃料は勿論、其外、耐火材料なども全部出して貰ふ、或は鑄物を造るに必要な諸機械、例へばサンドブラストとかモールドイング・マシンとかサンド・トウリーディング・マシンなど、鑄物工場用の諸機械を全部網羅して、其處に來れば鑄物の知識は一通り全部得られると云つたやうな展覽會をやらうとして、其事務は目下著々と進行して居る次第であります。實は今度も其爲に非常に忙しい場合ですが差繰つて出て來た譯でございます。どうぞ皆様の御盡力御後援に依つて此展覽會を是非やらせて戴きまして、我が國初めての鑄物展覽會を開いて、今少しく我が鑄物工業を啓發し、原價が一層安くなるまでに行きたいと思ひますから、此點に於ては鑄物も鐵鋼業の一部と思召して御援助の程を願ひます。(拍手)

倭國一君 石川博士、如何ですか。

石川登喜治君 大先輩の後に私が立つのは甚だ心苦しい次第ですが、御指名がありましたから所感を述べます。私は今日迄どつちかと云へば鐵鋼協會で研究されて造られたものを使用した側の人間でありまして、先程今泉博士から製鐵事業のことを御話になり又服部博士からも色々御話がありました、私はさう云ふものを使用することを丁度此會が生れる前からやつて居りましたので、鐵鋼業が如何に日本に發達して行つたかと云ふことを外觀的に見て居つたものであります。それで鐵板を使つて居つた方面の觀察もチョット御話し致した方が宜からうと思ひます。軍艦を造る鐵板其他の鋼材は前には外國品を澤山使つて居りました。段々製鐵所出て來るのを使つて見たが何ら悪い點がない。其中には鐵板が出來るやうになり續いて高張力鋼が出來ると云ふやうに刻々に出來て行く。それを見て居ると如何にも廻り燈籠を見てゐて繪が次から次に出るかの如くに愉快でありました。之は日本の鐵鋼業に使はれる鐵鑛は悪くて困ると云ふ話を聞いたこともありましたが、其日本の鐵鑛を最も學術的に研究され、又鐵鋼協會みだやうな所で討究され、今日御受賞になりましたやうな方々が多年専心其業務に従事され、自ら手を下してやられた賜に外ならぬと考へて居ります。私は全體の數量のことは餘り頭にピンと來ませぬが、材質の改良と云ふ點は頭に来る。試験して通るか通らぬかと云ふことをやりますが、強度があるとかないとか云ふことが始終頭に來て居るので、材質が向上してスラスタと合格品が出來、數量では外國に負けても材質に於ては負けないと云ふ自信を得たと云ふことは、鐵を使ふ方面から見て愉快禁ざる能はざる所であります。それから鑄物の話が出ましたから一言述べたいと思ひますが、大正4年丁度鐵鋼協會が生れる以前から、海軍に於きましても隨分人を出して外國に習ひにやり、色々努力しましたが、外國では旨く造つて居るが日本では出來ぬ偶々習つて來たものは出來るが、それ以外のものは出來ぬし、外國の通りのものも良いものは出來ぬ。出來ても、一品良いものが出來れば次には悪いものが出來ると云ふやうに、確實に經濟的に旨く出來ない。それで外國の鑄物を買つた方が日本で造るよりも先づ安上りだと云ふやうな聲が大正7.8年頃迄は隨分聞かされたのであります。私はそれがどう云ふ原因に依るものか、何故さういふかぬだらうと考へて居りましたが、之に對して學問的に配合を決めるとかどうするか云ふことは既に鐵鋼協會でも御指導になつて居りまして、雑誌を見ても諸元素の影響とか配合とか云ふこと

は随分言はれて居ります。之等實際にやつて見たがどうも良い成績が出ないと云ふ有様であつたので。私は従事して居る技術者が果してどれだけの眞剣さがあるか調べて見たいと思つて、鑄物場に行つて爐の前に突立つて鑄物をやつて居る技術者が自らやつて居るかどうかと云ふやうなことを觀察した所が、甚だ遺憾であります。學問をした人が自ら爐の前に立つて湯を沸してそれを見て今入れるとか何とか言つて居る人が少いやうに感じました。砂を握つて、此砂で大丈夫かと問ふと、それに對して確かな答が出来ずに、職工を呼んで、どうだ之で宜いか、はい宜いてせうと云ふやうな職工の頭で仕事をして居る技術者が澤山あるのを見受けた。私は役人になりましたので、職人になることはいかぬぞと言はれましたが、併しそれでは仕事が出来ぬと思ひ職人のやうな仕事もやつた爲に工合の悪いこともあつたのであります。職人のやることは幹部は知つて居らなくてはいかぬ。學問せぬ者が之で宜しいと言ふのを其まゝ受繼いで、攻究もせず之で宜いさうですと云ふやうな返事をする位なら、大學を卒業して爐の前に突立つて居る必要はないと思つた、之はどうしても自ら判斷する。技術者が欲しいと云ふのでさう云ふ技術者の養成に聊か盡した積りであります。さうすると今迄いけなかつた原因が分り、又自らやれば職人も嘘を言はぬ様になりました。段々此の事を宣傳しましたけれども、中々鑄物に對しては日本の工業界では同情がなく、又あんな汚い仕事をするよりもモット威張つて居れる方が宜いと云ふのでもあるのか志願者が少なかつた。所が一昨年十月に民間工場を巡視して技術者に試問をしてみました。此節は大分其方は一變しまして自ら仕事をしやうと云ふやうな技術者が殖えました。それが今日鑄物の急に發達した原因ではなからうか。尤も今でも内輪の話をすれば、遺憾ながら職人を呼ばなければ分らぬやうな技術者のある工場がまだあります。我々技術で立つ者が、専門のことを問はれた時に職人を呼ばなければ分らぬやうではいかぬ。先づ其精神を直さなければ日本の鑄物の發達は期待出来ぬ。殊に鑄物の方の職工志願者には悪いのが這入つて居る頭は悪くても力の強い者ならば大丈夫だと云ふので、さう云ふのを好んで入れてあつたせいだ配合でも一度やれば、もうそれが一番良いのだと思ひ込みそれを固守して、改良を命じても自分のやつたことだけは良いが人のやつたことは信じないと云ふやうな頭の持主が少くないそれも一面には良いことではあります。どうもそれが支障を起して改良されない。之

はどうしても要點々々は技術者がやるより外はないと云ふ結論になりますので、技術者が自らやる。良い職工が出る迄は技術者がそれを負擔して努力すると云ふ風になつた結果、大學を出た御方でも高等工業を出た御方でも上部たけてなく本當に精神迄さうなつた爲に今日の發達を來したものと思つて居ります。それからもう一つ感じたのは今日でも鐵鋼協會で色々論議されて居ること又雜誌で明になつて居ることがどうも徹底しない。工場の隅までは徹底しない、それは鑄物をやつて居られる技術者にも聊か責任がありはしないかと云ふ觀察をして居ります。自分だけ握つて職人には分らないやうにして居るのか、とにかく言付方が悪いのか分りきつた様なことが實施されていないのがある、近年はそれも非常に改良されました。併し一昨年廻つて見た時でも、或る工場では何を問ふても答が出来るが或る工場では、鑄鐵を熔かすのにキューボラのコークスは如何様に使つて居るかと職人に問ふて見ると、其答が幹部に聞いたのと違ふ。其の違ふのは一體どうかと問ふと、いやさう云ふこともありますと云ふ返事。之は要するに幹部が見て居らぬのぢやなからうかと思ふ。幹部は鐵鋼協會の鑄物部會で論議された様なことを言ふて居らるので其れをやる積りなるも實行されて居らぬのではあるまいか。一昨年鑄物部會で攻究されたのが非常なセンセーションを起した。併しながら行つて見ると、現場でやつて居る積りのものが職人に尋ねると、そんなことは出来はしませぬと言ふ。さう云ふやうにやつて居らぬ所もあつたが、併し大體は非常に改良されて來た、もう一息の所て仕事合理的に行はれるやうになるのであらう。どうか我々が何時も高唱して居るローカーボンとかパーライティツク、アイアンとか云ふ如き御互に充分宜しいものと信ずるものゝ實施は徹底的にやつて欲しい。一昨年十月に調べた結果、遺憾ながら海軍關係の工場などでは箇數に於て10%以上の廢品を出すものが多數ある。マス・プロダクションをやつて居られるやうな所は10%は出て居りませぬが、艦船の兵器とかシリンダーとか水壓ポンプとかは10%以内で納まつて居るものは少い。寸法の相違とか削り損ひとか色々な點もあるが鑄物の疵の廢品が多い。之ではいかぬ少くとも1%か2%に止めたい。外國のはオフィシャルレコードですが3%と云ふことを言つて居る。即ち鑄物場の廢品率は以下が普通となつて居る。さうすると日本が少くとも其れまで下げるには非常な努力が要りはしないか。自分の所は1%もないと言はれるかも知れないが、それは或る

種類のもので御得意な品物はさうかも知れない。どんなものを持込まれても1%以下で済むと云ふことは今の日本の鑄物の状態では仲々困難のことと思ふ。

忌憚ない報告を見ると7割以上の廢品を出して居るのも少くない、もう一息の所だから鐵鋼協會あたりの御盡力に依つて少くとも5%以上をスクラップするものはないと云ふやうに御努力を願ひたい。常に一般鑄物の製品を安くするのみならず國家の艦船兵器の優秀なるものを得ると共に製造費を安くすると云ふ意味に於ても御助力を願ひたいのであります。それから關西鑄物協會の御話がありましたからそれに關聯しましてテヨット申し述べます。前に申述べた様に理窟は分つていても之を正確に實施するには従業員全體の質の向上をなし技術の徹底が必要だから、お互に技術に關する懇談をなし従業員の知識向上技術の振興を計り全體の仕事が無駄なく合理的にやらうと云ふには何か手近いものが宜からと云ふので俵先生其他の先輩の御指導を得まして鑄物協會と云ふものを作つた。作つてから二年ぐらゐになります。關西にもそれがありますが、關西のも關東のものも目的は同じでありまして、多分關西でも私のやうな御考でやつて居られると信じますから、早晚合同すべきものだと思ふて、一生懸命盡力して居ります、それで此鑄物協會とは、鐵鋼協會とは全く他人ではない同じ家のものであります。右の次第で便宜上鑄物だけを一つ旨く指導して行かうと云ふ考でやつて居りますので、直接の弟か子供と御考へになつて、會員諸君に於かれてはどうか此鑄物協會の方も御援助を願ひたいと思ひます。そして御氣付になつた點はよく御話し下さいまして、お前の今言ふたことは間違つて居るもつと斯う云ふやうに従業員を指導しなければいかぬと云ふやうな御意見があるならば御腹藏なく仰しやつて戴きたいと思ひます。又雑誌を出して居りますが、其雑誌も成るべく従業員全部に徹底するやうなものを出して居ります。先づ従業員の向上を圖つて置いて、幹部の人が言ふたことが間違ひなく傳はつて實施されると云ふことに依つて初めて鑄物工業が發達すると思ひますので良い理窟とか理論とか又は大きな實驗の報告は鐵鋼協會の方でやつて貰つて、それを普遍的にやるやうな仕事を私の方でやつて居るものですから、此點を御諒解下さつて然るべく御指導の程を、甚だ懇張つた御願ひですが茲に申し述べて置きます。(拍手)

倭 國一君 商工省の吉田技師に願ひます。

吉田永助君 私は商工省に居りまして産業合理局の方の

仕事をやつて居ります。私は機械の方のもので少し専門が違ひますけれども、今朝來の御講演並に今夕の御演説を頗る有益に拜聴いたしまして少しく感じたことがありますので極く簡単に申し上げます。昨年から合理局の方では例の國產愛用産業振興と云ふやうなことに色々力を盡して居りますが、此頃は我が國の不況などが官民一般の頭に非常に徹底したからでもありませうし色々理由からして、國產愛用と云ふことが相當實行されて來たやうに思ひます。官廳では海陸軍を初め鐵道其他に於ても國產品の用るに努められ、又民間の方にもさう云ふ精神が非常に普及して居るやうで、大變結構なこと考へるのであります。それで我々の方には國產愛用委員會と云ふものがありまして、極く普遍的に一般に使はれるやうなものを、昨年から色々選擇して工場を見たり又は製品を試験して見たりしまして内外品の對比展覽會と云ふものを昨年は各地方約五十ヶ所に開きまして、斯う云ふ良いものが出来るのだから外國品を使はずに日本品で間に合せよと云ふことの宣傳をやりまして相當効果があつたのであります。其結果私共の感じたことは、建築に關したのものなどにはまだまだ材料其他の研究に於て缺けて居る所が可なりあるのであります。其爲に、我々が色々試験して見たり推奨しやうと思つても、或る所迄は進歩して居るけれどももう少しの所で及ばない點があるやうに思はれます。もう少しと云ふ所で研究が足りない。さうして學會などの研究が、今石川さんの述べられたやうに實際の製造者は十分に徹底しないと云ふ憾みがあるのではないかと思はれるのであります。それに付ては加工の方はまだ宜しいのですが、材料の方に其事が最も甚しい。例へば或る所のコースター・ブレイキなどを試験しましたら、初めは英國製品が二千五百回ブレイキをかけて破損したのなら日本は八百回位で壞れた。それは中の一番力の要る所を餘り硬く焼を入れた爲に、減りは少いけれどもショックに依て割れるのである、さう云ふやうな缺點があるので、鐵道の研究所で、材料の品質とか加工の仕方を色々教へて戴きました所が、今度二番目にやつた時には、外國のよりもズット保ちが良くて、三千回かやつてもまだ壞れないと云ふやうなことも實際あるのであります。又ドー・チェックの油なども、初めは良くなかつたのですが、それを改良してビスコシティーの變化の少いものに用いた所が非常に工合が良くなつた。さう云ふやうな材質の取扱とか色々な研究の不足の爲、或る肝腎な所に極く詰まらない手落をして居つて、其爲に全體のものが

良くないと云ふやうなことがあるのであります。こう云ふことに就き研究された學者の方は随分多いのであります。それが當業者の方にどうも十分に徹底しないで、良いことがあつてもそれを知らない。又それに教へる機會がない。或は又實際にやつて居る人間が成るべく安く唯形だけを拵へると云ふので、本當の要點を研究するか或は研究所などに聴きに行くとかと云ふ勞を取らないと云ふのが随分あるでせうが、國產愛用とか國產振興とか云ふことに付ては、此協會あたりの御研究が益々總べてに普及して何處迄も行亘ると云ふことが最も必要である。さうなれば使ふ方では、國產品も本當に良くなつたと云ふ考が出て來るし、造る方でも、それに合ふやうな保ちの良い、而して外國のものに劣らないものを造ることが出来る。之が國產振興の上には最も重要なことだらうと思ひましたから申し上げた次第であります。それからもう一つ、我々の方では日本にまだ出來てゐないもので而かも非常に需要の多いものゝ製造を日本に起すと云ふことを心配し

て居ります例へば自動車などもまだ日本に餘り出來ない。年々數千萬圓づゝ這入つても需要は益々殖える一方である。さう云ふものを日本で充分出來るやうにして使ふ方は皆で使ふ。研究する方は研究すると云ふやうにしたら、失業救濟或は國際貸借の改善等に資する一端ともなる譯であります。もう一つの例は、シンガールのソーキング・マシン、あれなども數百萬圓の輸入があるに拘らず、日本でやつて居るのは現在は殆んど問題にならない。それらも今一段の努力をすれば決して出來ないことはない。それらのことに付ては我々の方でも色々努力はして居りますが、今申しました中の材料などの根本的の御研究の方面等に對しては、どうぞ斯う云ふ會で出來るだけ御援助下さいまして、本當の國產品が澤山出來るやうに希望する次第であります。
(拍手)

儀 國一君 時間が大分経りましたから之で會を閉ぢることに致します。今夕は多數の御方より有益なる御話を戴きまして誠に有難うございました。(拍手)